

澁谷内閣審議官による記者ブリーフィングの概要

日時：平成27年3月13日（金）18：10～18：25

場所：内閣府

【冒頭発言】

12日は首席交渉官全体会合3日目である。午前中は、環境の議論を行った。環境は、もともと、昨年10月のシドニー会合で大きな進展があり、もはや難航分野でないという位置づけとなり、12月のワシントン会合でできればクローズしようという雰囲気でも議論したが、そうはならなかった。1月のニューヨーク会合の後には、意見を出している国が絞られているので、その意見を出している国も含めた関係国の間で調整がずっと続けられてきた。議長国がずっと調整を続けてきて、昨日もワーキンググループを行ったが、内容面で意見を言っている国があるので、なるべくそれを踏まえたテキストの書き振りの調整をしている。もうすぐ終わりそうと思われていたが、今朝の議論では、内容面よりも、今後の議論の進め方などについて意見が出され、もう一度交渉官レベルで調整をすることとなった。13日の会議で報告できるかは微妙なところ。午後は、バイや少数国会合の時間に充てられ、鶴岡首席交渉官は少数国会合に参加した。

夕方から全体会合が再開され、市場アクセスの議論をした。市場アクセスは、物品の関税の市場アクセスだけでなく、投資や越境サービスに関する市場アクセスであるNCM、金融サービス分野における外国の金融資本に関わる市場アクセス、ビジネスマンの一時的入国、政府調達に関するものがある。WTOの政府調達協定に入っていない国が8か国あるので、それらの国を中心に、国ごとに、どういうものをどういう基準で開けるのかということ協定している。これも一種の市場アクセスということで、以上のものを幅広く市場アクセスと呼んでおり、オタワの会合から、毎回の首席会議で、12人の首席交渉官が、自国の市場アクセスに関する調整状況を一人ずつ口頭で紹介しあうというのが定番化し、昨日はそれに充てられた。物品も、日米も含めて難しい問題が残っている国が多いが、紹介しあう中で、物品が片付かないことも原因だと思うが、NCMの協議が物品に比べて遅れ気味ということで、NCMを加速させようという認識が共有された。

並行している分野別のワーキンググループは、昨日に引き続き、国有企業、知的財産、法的・制度的事項、原産地規則（繊維含む）の4グループである。環境のワーキンググループは昨日だけであるが、先ほど申し上げたように、今日も何か国かで集まって引き続き調整をしていると思う。投資のワーキンググループは昨日まで行っていたが、今日からNCMのバイの協議に切り替わった。切り替わったと言うのは、国によっては、投資の交渉官がNCMの交渉官を兼ねる国があるためである。NCMの協議は最終日まで精力的に行われることになっている。NCMの交渉は、我が国にとって、特にビジネスチャンスにつながるアジアの国々に対して、完全に攻めの分野になっている。そうではあるが、関税交渉の様子見で保留扱いの項目が結構多いということで、交渉官レベルではなかなか動かないものがあるので、今会合では、鶴岡首席交渉官は、首席交渉官同士のバイの協議の際に、この部分をかなり力強く攻めているところ。

大江首席交渉官代理は、12日は、前日に引き続き、米国と事務レベルの協議を行った。この他、米国以外の2か国と協議を行った。大江首席交渉官代理以外の交渉官レベルの協議は、午前中に1か国とバイの協議を行った。

13日は、午前中はバイと少数国の協議を行う予定であり、予定はすべて流動的だが、現時点では、午後は原産地規則、夕食休憩を挟んで、夜7時半から投資を行う予定。14日(土)は、午前中に国有企業を行い、午後は知的財産を行う予定。最終日の15日(日)は、午前は引き続き知的財産をやり、残りの時間をハワイ会合中に議論した宿題の返しをやる予定。

【質疑応答】

(記者)

これまで、市場アクセスが進まない中、NCMの保留が多いという話だったが、ハワイ会合でもその状況は変わらないか

(澁谷審議官)

特にNCMの保留の数は、鶴岡首席交渉官が強く攻めたので、その後、交渉官レベルで動きがあったものもある。だが、劇的に少なくなったという感じではない。

(記者)

大きく変わる感じではないのか。

(澁谷審議官)

物品だけでなく、知的財産などルール分野も含めて全体のディールを考えている国が多いのかもしれない。恐らく、本当の最終段階になれば、一気に進むのではないか。

(記者)

日米は、大江代理・ヴェッター首席農業交渉官の協議が2回行われたが、内容は。

(澁谷審議官)

大江代理は、先週のカトラ一次席米国通商代表代行との協議終了後、難しい問題のほかに、論点を整理すると技術的な問題が色々出てくると言っていたが、今回、ヴェッター氏と協議をして、技術的な問題については、終わったわけではないが、それなりに進展があったという。難しい問題は「腹の探り合い」なので、進展したかしないかという評価は難しい。ヴェッター氏とは、今後も電話やメールで協議を続けていくということではないか。

(記者)

ハワイでは、大江代理は日米の協議をもう行わないのか。

(澁谷審議官)

大江代理レベルで日米はもう協議を行わないと思う。他の国とはまだ協議を行うだろう。

(記者)

日米は、更にもう一度事務レベルで協議するのか、すぐに閣僚レベルとなるのか。

(澁谷審議官)

すぐに閣僚ということはイメージしていない。森大使も、今回はハワイに行っていないが、カトラー氏ともう一度どこかで会わないといけないだろう。そうした状況を見ながら、今後の日程は調整していくことになる。

(記者)

日米の腹の探り合いというのは、どちらかと言うと、ヴェッター氏と協議する話か、カトラー氏と協議する話か。

(澁谷審議官)

両方だろう。カトラー氏とは先週協議して、ハワイでは、ヴェッター氏が来ていたので、ヴェッター氏とも協議を行ったということ。

(記者)

ハワイ終了後、大江代理がワシントンに回って協議するということもあり得るのか。

(澁谷審議官)

そんなにすぐ、ということはないだろう。

(以上)